

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 目野 郁子	職名 教授	学位 博士 (医学) (九州大学 1994 年)
----------	-------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
病原微生物学 免疫学	微生物 感染症 感染対策 予防接種免疫抗体

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワクチンで予防可能な感染症について、成人を対象にワクチン接種とその免疫持続状況を調査し、発症予防のためのワクチン接種時期の妥当性について考察する。</li> <li>・ 保育園をモデルに感染症流行を制御するために効果的な感染症予防対策について検討する。</li> <li>・ 2018 年度より開講した初年次教育について、看護学科 1 年生を対象に教育プログラムの検討をする。</li> </ul>

担 当 授 業 科 目
感染と免疫 (前期) (看護) 生物と生命科学 (前期) (看護) 生物と生命科学 (前期) (福祉) 初年次セミナーI (前期) (看護) 初年次セミナーII (後期) (看護) 微生物学 (後期) (福祉)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<b>授業科目名【感染と免疫：看護】</b> ①講義は、最初に教科書を使い説明、次にパワーポイントで補足説明をした。学生には重要な箇所を教科書及び配布プリントに書き込むよう指示した。また、講義途中で学生の反応を見ながら質問を受ける時間を作り、理解できていない内容は、繰り返し説明を行った。 ②学生に緊張感と学習準備を促す意味で、小テストを導入した。小テストは講義進行半ばで実施し、国家試験を意識する内容とした。成績は開示し、テストの解説を行なった。 ③自主学習を促すため、講義内容を整理するためのプリントを 3 回配布した。学生にはプリントの項目に沿って、教科書を中心に関連する専門基礎科目や専門科目と連携させながらまとめるよう指導した。
<b>授業科目名【生物と生命科学：看護】</b> ①高校の生物の学び直しではなく、大学での学びに必要な生物学の位置づけで講義内容を組み立てた。看護学科では、"体の構造と機能を知ることによって疾病が生じる原因を根拠に基づき説明できるよう"、疾病モデルを提示し、高校で学ぶ基礎的な知識を基盤に講義を展開した。 ②学生に緊張感と学習準備を促す意味で講義進行半ばに小テストを実施した。 ③また、主体的な学習を促すために小テストの解説レポートを課題として課した。レポート作成法・解答を導くための解説は、事前にモデルを提示し図書検索・図表など積極的に使うよう促した。特に、関連科目の教科書や参考図書を使い解説するよう指導した。 ④講義途中と講義後に質問を受ける機会を設けた。また、グループディスカッションをさせ、自己解決を促し、その後に再度質問を受けるようにした。

### 授業科目名【生物と生命科学：福祉】

- ①高校の生物の学び直しではなく、大学での学びに必要な生物学の位置づけで講義内容を組み立てた。講義では"生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)"に焦点をあて、高校で学ぶ基礎的な知識を基盤に講義を展開した。
- ②学生には、日常生活の中から理解しやすい事例を用い講義を行った。また、配布した講義プリントに重要点を書き込むよう指示した。
- ③学生に緊張感と学習準備を促す意味で講義進行半ばに小テストを実施した。成績は開示し、解答を導くための解説を行なった。
- ④講義途中と講義後に質問を受ける機会を設けた。また、グループディスカッションをさせ、その後、自己解決を促し、その後に再度質問を受けるようにした。
- ⑤学習課題の評価項目には、雑誌・図書を使うことを明記し学生に図書館活用を促した。

### 授業科目名【初年次セミナーⅠ：看護】

- ①科目担当者が10名から5名の体制になった。教員間での指導の差をなくすため、講義前には講義内容の確認を、講義後には学生の姿勢や達成状況などについて意見交換を行った。
- ②また、学生が講義内容を充分把握した上でゼミ活動を行うことができるよう、授業進行にそって講義責任者が、学生全員を対象に講義概要を説明した。その後、ゼミ別にゼミ担当教員が学生指導を行った。
- ③スタディスキルの習得を図るためミニレポート・レポート作成に取り組む授業コマ数を昨年より2コマ増やした。提示する課題についても検討を加えた。また、昨年の課題であった文献引用・文献記載法の指導を強化した。
- ④ミニレポート・グループワーク・ポートフォリオについては、評価視点を明確にするため評価表の修正改善を行った。
- ⑤昨年同様、情報収集の方法について情報課および図書課と連携し実践を通し学生の学びを深めた。

### 授業科目名【初年次セミナーⅡ：看護】

- ①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。
- ②講義を2コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行が可能になった。
- ③初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるよう課題発見のためのシートなども改良した。また、学生が考え抜く力を身につけるために、毎回の演習の振り返りを行うためのシートを追加した。
- ④課題レポートのグループテーマを新聞情報から見つけるように指導した。この取り組みにより学生の社会に対する視野の広がりにつながったと考える。
- ⑤初年次セミナーⅡでは初年次Ⅰとは異なるグループ編成にした。その結果、学生間に大きな評価の差もなく、学生からは「今まで会話したことがなかった学生との交流が図れた」との意見が聞かれた。
- ⑥DPにそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができていた。
- ⑦今年度は、教育体制を教員10名から5名にした。少人数での協議は、教員間の調整が容易となり、講義内容および成績評価の差が少なくなった。また、パワーポイントを用いた発表評価は、担当者5名に看護学科教員1名を加えた計6名で評価した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うことができた。

### 授業科目名【微生物学：福祉】

- ①昨年同様、第1回目の講義において本科目の該当DP、授業概要、達成すべき行動目標と達成目安について説明した。また、養護教諭免許取得に必要な科目のため内容は専門的であること、講義の前後に主体的な学習が必要であることを説明した。
- ②知識の整理をするために講義8回目小テストを実施し、早期から講義を振り返る姿勢を促した。

- ③特に大切にしていることは、感染症についての基礎的な知識を修得し、そこから学校や医療福祉現場で発生した感染症事例について学ぶことである。講義→感染症事例→予防策という一連の流れにより現場で必要な知識の修得を目指した。
- ④講義内容を整理するために講義進行にそって重要ポイントを数回提示し、雑誌・図書を積極的に利用し自主学習するよう促した。また、講義外にも空き時間を利用し質問をうける体制をとった。
- ⑤学生のモチベーションを上げるため、養護教諭として活動している先輩の情報や感染症についての最新のトピックスを提供した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本細菌学会		1987年4月～現在に至る
日本感染症学会		1996年4月～現在に至る
日本小児保健協会		2000年4月～現在に至る
日本環境感染学会		2004年4月～現在に至る
日本ワクチン学会		2016年4月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 病原体・感染・免疫	共	2020.2	南山堂	<p>① 医療系の学生および医療従事者を対象に、病原体、感染及び免疫を学ぶ教科書・参考書として企画した。3版4刷では最新の情報を入れ内容を更新した。</p> <p>② 監修者名 藤本秀士 共著者名 目野郁子 小島夫美子</p> <p>③ 担当部分 第4章 感染症の予防と感染制御対策・技術 (P91-P128)</p> <p>総頁数 P394</p> <p>④ B5 判</p>

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. A 保育園への感染症対策に向けたアプローチ -効果と課題-	共	2020. 3	西南女学院大学紀要 No.24	① 2013 年より保育園での効果的な感染症対策の検討を目的に、A 保育園をモデルに感染症に関する情報提供を継続的に行なってきた。その効果について、園での組織的な取り組み、園児の欠席者数や予防接種率を指標に調査し、その結果をまとめた。 ② 共著者名 樋口由貴子, 目野郁子 ③ (P1-P9)
2. 看護学科における初年次教育の取り組み	共	2020. 3	西南女学院大学紀要 No.24	① 2018 年より全学的にスタートした初年次教育(初年次セミナー)の看護学科における教育プログラムを検討し、実施した内容についてまとめた。 ② 共著者名 高橋甲枝, 目野郁子, 新谷恭明, 前田由紀子, 一期崎直美, 笹月桃子, 溝部昌子, 吉原悦子, 財津倫子, 中原智美 ③ (P11-P21)
(翻訳)				
(学会発表) A 保育園における感染症対策の取り組み	共	2019. 6	第 66 回日本小児保健協会学術集会 (於：東京)	① 2013 年より保育園での効果的な感染症対策の検討を目的に、A 保育園をモデルに感染症に関する情報提供を継続的に行なってきた。情報提供後に園での感染症対策の取り組みがどのように変化したかを具体的な実践例をあげ、まとめた。 ② 共著者名 樋口由貴子, 目野郁子 ③ 第 66 回日本小児保健協会学術集会抄録集 (P232)

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績 総数 (2019.4.1-2020.3.31日現在) 著書 1 (内訳 単 0 共 1) 学術論文 2 (内訳 単 0 共 2) 報告書 0 (内訳 単 0 共 0) 学会発表 1 (内訳 単 0 共 1)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡県食品安全・安心委員会 福岡県知事の附属機関である「福岡県食品安全・安心委員会」において、食品の安全・安心の確保に関する基本計画等について調査審議する。</li> <li>北九州養護教諭のための勉強会 養護教諭を対象に「腸管感染症とその予防」というテーマで講演を行なう。</li> </ul>	委員	2019年5月1日～2021年4月30日  2019年10月10日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・ 人事委員会委員 2017年4月1日～現在に至る
- ・ 動物実験委員会委員 2016年4月1日～現在に至る
- ・ 保健福祉学部附属保健福祉学研究所運営委員 2003年4月1日～現在に至る
- ・ 公的研究費内部監査部門担当者 2017年2月～現在に至る
- ・ 西南女学院100周年記念誌編集委員会所属担当委員 2018年7月～現在に至る
- ・ 学生の健康支援  
保健福祉学部、人文学部、および助産別科の1年生を対象に、毎年学科毎にワクチンで予防可能な感染症について感染症予防の説明を行ない（予防接種手帳配布・抗体検査結果配布）、予防接種が必要な学生には個別に面談し接種勧奨を行なっている。2011年～現在に至る。  
2019年5月～2019年7月、5回実施
- ・ 保健福祉学部福祉学科2年生対象：講義1回  
学外実習前に「感染症および感染症予防対策」について講義を行なう。2019年12月10日、講義1回
- ・ 看護学科推薦入試合格者に対する入学前課題担当  
課題提示と提出された課題の評価及び面談により個別学修支援を行う。2009年～現在に至る。